

2. 事業の目的と概要	
(1) 上位目標	ダダーブ難民キャンプに滞在する難民と、キャンプ周辺地域に居住するホストコミュニティ住民の住環境を改善する。
(2) 事業の必要性 (背景)	<p>ケニアとダダーブ難民キャンプ</p> <p>ケニア共和国は 25 年間にわたり、隣接するソマリア、南スーダンを始めにエリトリア、コンゴ、エチオピアなど約 20 ヶ国からおよそ 60 万人もの難民を受け入れている。世界最大の難民キャンプであるダダーブ難民キャンプは、1991 年に約 10 万人のソマリア難民を收容する計画に基づいて開設されたが、その後ソマリア国内の無政府状態による混乱の長期化、2010 年から翌年にかけてはソマリア、ケニア、エチオピア、ジブチ等で発生した大干ばつと飢饉により難民数が増加し、2016 年 6 月末時点で、ダダーブ難民キャンプ全体で 341,574 名¹ の難民が登録されている。</p> <p>難民キャンプの縮小と脆弱層への仮設住宅の必要性</p> <p>ダダーブ難民キャンプは、2016 年 6 月に行われたケニア・ソマリア両政府および国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の三者協議に基づいて段階的な縮小計画が発表され、2018 年頃までに閉鎖される見込みである。この動きに沿ってソマリアへ帰還する難民への支援拡大に国際社会の関心が喚起される一方で、ダダーブ難民キャンプに取り残される、特に脆弱な人々である母子世帯や両親のいない世帯、高齢者だけの世帯、障がい者の世帯など、脆弱な難民に対しての支援は継続して必要である。閉鎖に向けてキャンプの統廃合が進む中で、脆弱な難民に対して最低限の住まいの提供は今後も引き続き喫緊の課題である。これまで 2014 年に開始したダダーブでの N 連事業の 1 期と 2 期にて仮設住宅 1,095 軒を建設し、今年 12 月 1 日までに 755 軒を設置するが、未だに多くの難民が仮設住宅に住むことができているのが現状である。</p> <p>ホストコミュニティを取り巻く課題と軋轢</p> <p>ダダーブにあるダダーブタウンでは、ホテルやレストラン、ハードウェアショップなど、いくつかのビジネスを見ることができているが、ダダーブのあるガリッサ県はケニア国内の主な産業都市から遠く離れており、かつ主要産業もないことから、同国における貧困地域のひとつとなっている。そのためダダーブに住むホストコミュニティ²の人々は現金収入を得るため、難民キャンプで支援活動をする国連や NGO 団体等の日雇い労働にしばしば従事している。しかし、ホストコミュニティの人々は、他地域のケニア人に比べ教育の普及率が低く、また技術を持っていないため、日雇労働よりも収入の高い国連や NGO 団体職員の他、技術を必要とする大工・溶接・塗装・電気技師、教師として雇用されるのは他地域から来たケニア人が殆どである。そのため雇用機会に恵まれない地元民の不満が重なり、支援団体の活動を妨害するなど、ホストコミュニティと支援団体および雇用される人々の間には無視のできない軋轢が存在している。</p> <p>さらに、国際社会からの支援が集まる難民キャンプでは食糧・水・医療・教育へのアクセスが難民登録をした人々全てに無料で提供されている一方、ケニア人であるホストコミュニティ住民はこうしたサービスを無料で受けることはできないため、ホストコミュニ</p>

	<p>ティと難民キャンプに住む難民との間には大きな経済・社会的な格差もできている。</p> <p>ホストコミュニティの住環境整備の必要性</p> <p>ダダーブ難民キャンプでは難民にはある程度の強度を持った仮設住宅が無償で提供される一方、多くのホストコミュニティは枝や土のみを使った非常に簡素な作りの家屋に住んでいる。その理由として、ダダーブでは家屋用のブロックの製造がされておらず、かつダダーブで手に入るものは離れた地域で製造、輸送されてくるブロックのみであり、こうした製品は輸送費も上乗せされ高価になるためである。</p> <p>ISSB ブロックはセメントを一定の割合で混ぜた土ブロックのため、一般に流通しているブロックと比較すると安価であり、ダダーブ内で製造するため輸送費が上乗せされることもなく、地域の人々が購入できる価格で流通することができる。また、現地での聞き取りの結果、安価で耐久性の高いブロックが手に入るならば家屋の改善のために購入する層は数多くおり、普及がされればホストコミュニティの住環境の改善に大きく貢献される。</p> <p>ダダーブ難民キャンプが大幅な縮小に向かう中で、ホストコミュニティからは消耗した資源や環境の回復を求める声が上がっていることから、キャンプ閉鎖後にホストコミュニティが自立するための生計向上や環境整備支援を拡充することが求められる。</p>
<p>(3) 事業内容</p>	<p>本事業では、ダダーブ難民キャンプにおいて 300 戸の仮設住宅を建設するとともに、ホストコミュニティを対象に家屋建設用のブロック製造技術研修および普及促進を行い、難民とホストコミュニティ住民双方の住環境の改善に寄与する。</p> <p>① 難民キャンプにおける脆弱な難民世帯への仮設住宅提供</p> <p>キャンプ内で建設する仮設住宅は、シェルタークラスターが規定する標準規格モデルである「簡易 I シェルターモデル」を建設する。キャンプでの収入や資源をめぐる難民とホストコミュニティ間の軋轢は根深いことから、前事業で培った事業運営方法を活かし、本事業でも難民・ホストコミュニティ両方と協働して仮設住宅を建設することで、相互理解・対話を積み重ね、ダダーブ難民キャンプ並びにソマリアにおける平和構築への足掛かりとなるよう事業を実施する。資材購入には、適正な入札を行うことや、周辺地域から購入することで、地元経済に貢献でき、仮設住宅の建設により、感染症や強盗・害虫からの保護、十分な空間の確保による精神的安定や慣習の尊重が期待される。</p> <p>仮設住宅建設の実施手順は下記の通り。</p> <p>(ア) 事業実施体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当団体现地スタッフから、各現場監督へ仕事内容の指示、必要に応じトレーニングを実施。 <p>(イ) 裨益者の選定</p>

¹ UNHCR Statistical Summary as of 30-Jun-2016 参照

² 難民キャンプ周辺には、難民ではない、元来、この地に居住していた住民がおり、この住民およびその村落を「ホストコミュニティ」と呼んでいる。

- ・ UNHCR が作成したリストに基づき、当団体现地スタッフを中心に裨益候補者の家庭訪問。裨益者はより脆弱な世帯（母子家庭、高齢者、障がい者等）を優先して選定する。
- ・ 裨益者として選定された世帯主と当団体とで覚書を締結、必要な作業を依頼。

(ウ) 仮設住宅建設用資材の調達・輸送・加工

- ・ 資材はケニア国内で調達し、キャンプ内の当団体コンパウンドないし他団体から一時的に借りたコンパウンドに輸送させる。
- ・ 同コンパウンドにて、難民・ホストコミュニティの委託業者が木材等の加工を行う。
- ・ 各仮設住宅建設場所まで資材の輸送はロバ等を使用し、裨益者自身で手配するが、難しい場合は隣人の手を借りる。資材の積み降ろしには難民・ホストコミュニティの住民を雇用する⁷。

(エ) 仮設住宅建設

難民・ホストコミュニティからなる建設チームを作り、建設を進める。また建設作業のモニタリングとして地元住民或いは難民で類似経験のある者をモニターとして雇用する。建設手順は以下の通り。

- ・ 基礎工事（測量・掘削、支柱の設置）
- ・ ドア、窓部分の木枠設置
- ・ 屋根設置
- ・ ドア・窓の設置
- ・ 壁となるビニールシートの設置

建設工事監督、フォアマン（建設現場主任）、モニターが上記作業工程を監督。

(オ) 譲渡・モニタリング・GPS マッピング

完成後、譲渡証明書に世帯主の署名を取り付けた上で、仮設住宅を引き渡す。プロジェクト・アシスタントを中心にモニターの協力を得て、譲渡後、各仮設住宅を訪問し、モニタリングを実施。また、GPS 地図上で各仮設住宅の場所を登録する。

② ホストコミュニティを対象としたブロック製造技術普及

ホストコミュニティにおいては、現地で支援経験のある現地 NGO (RRDO : Relief, Reconstruction and Development Organization) と提携し、過去にダダープ難民キャンプで仮設住宅建設に使われていた耐久性の高い ISSB ブロックの製造研修を行う。研修参加者は研修を通して、コミュニティ内で ISSB ブロックを普及する。

また、製造技術の他に会計や組織運営についての研修も実施し、研修生が将来有志で会社を結成し、ISSB 製造・販売・建設事業を開始するために必要なスキルを学ぶ。地域内で、ISSB ブロックを製造し販売することで、地域全体の住環境の改善に貢献する。研修対象に無職の若者を呼び込み、若者らの就業機会の獲得にも寄与する。事業開始に当たっては現地当局から環境への負担調査の実施を義務付けられている他、外部資金を用いて研修兼製造用施設を新規

	<p>に建設するため、これらの準備期間を考慮し、研修開始は2017年4月以降を見込む。</p> <p>ISSBの普及促進の実施は実際にISSBブロックの家屋を見ることで自宅にも取り入れる意欲を掻き立てることを目的としているが、一定期間内に住民の間で普及が進まない場合には、提携予定団体の敷地内にデモ家屋を作り、定期的に説明会を開催するなど普及促進活動を強化する。その他、学校など公共施設の建設材料として使われるよう、地方行政にも働きかけ、地域内でのISSBブロックの普及定着を促す。</p> <p>ブロック製造研修の実施手順は下記の通り。</p> <p>(カ) 事業実施体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現地行政、コミュニティリーダーなどへ事業の説明を行い、協力体制を構築する。 ・環境への負担調査の実施。 ・提携団体事務所敷地内に研修兼製造用施設及び倉庫の整備。 ・研修参加者³の選定方法や年間研修計画の策定。 ・ブロック製造専門家を製造機械業者から招聘し、研修員を育成する。 ・提携団体と当団体職員に事業計画を共有し、必要なスタッフを雇用。 <p>(キ) 裨益者の選定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・設定した基準に則って研修参加者を選定し、参加にあたっての確認事項についてMoUを結び合意を取り付ける。 <p>(ク) 研修用資機材の調達</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック製造用資材は原則ダダーブ地域内で調達し、提携団体コンパウンド内に新規に建設する倉庫スペースに保管する。 <p>(ケ) 研修の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・選定された研修参加者に対して、ISSBブロック製造、簿記、倉庫管理、マネジメント等の研修を行う。 ・定期的にブロック製造専門家を招聘し、研修員へのリフレッシュ研修を行うとともに、研修・普及事業についての助言を仰ぎ、事業改善に活用する。 <p>(コ) 普及促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修参加者が研修中に製造するISSBブロックを使用して、コミュニティ内でのISSBブロック普及を図る。
(4) 持続発展性	<p>仮設住宅建設</p> <p>仮設住宅建設においては、難民およびホストコミュニティ住民双方に資材調達や熟練工の仕事等を委託⁴することで、現地で雇用を創出し収入向上に貢献するだけでなく、難民とホストコミュニティ双方と協力しながら事業を行うことができる。難民支援事業の円滑な実施に不可欠なホストコミュニティと弊団体の良好な関係を維持</p>

³ 研修員は研修をするトレーナー、研修参加者は研修を受ける参加者とする。

⁴ 本事業においては、一部の作業（大工作業、木材加工、資材積み下ろし等）を難民キャンプに住む住民と、ホストコミュニティの住民双方に委託しながら進める。このような作業を難民とホストコミュニティ住民に委託することで、両者に収入向上の機会を与えることができる。

	<p>し、さらには難民とホストコミュニティに協働を通じた相互理解・対話の機会を提供することで、ダダーブ難民キャンプ、ひいてはケニア、ソマリア両国における平和構築に寄与する。</p> <p>ブロック製造研修</p> <p>ブロック製造研修では、研修修了者がスキルを身に付けることで、ISSBブロックが地域に普及し、ホストコミュニティ全体の住環境の改善に貢献するとともに、若者の就業機会を創出することで、地域経済の底上げに寄与する。</p>
<p>(5) 期待される成果と成果を測る指標</p>	<p>① 難民キャンプにおける脆弱な難民世帯への仮設住宅提供</p> <p>【期待される成果】</p> <p>300世帯（1,200人、1世帯平均4人）が仮設住宅で暮らせるようになり、スフィア・スタンダード⁵で定義される最低限の生活空間が獲得される。</p> <p>【成果を測る指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した仮設住宅の戸数：300戸 ・使用されている仮設住宅の割合：100% <p>【副次的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホストコミュニティと難民、支援団体との協力関係・信頼の構築。 ・感染症や風邪の予防。 ・強盗・害虫からの保護。 ・十分な空間の確保による精神的安定及び慣習の尊重。 <p>【確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業期間中に戸別訪問を行い確認する。 ・居住者が、譲渡証明書に署名した難民自身であることをモニタリングで確認する。 <p>② ホストコミュニティを対象としたブロック製造技術普及</p> <p>【期待される成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・160人（40人×4回）のホストコミュニティ住民が研修に参加し、ISSBブロック製造技術を身につける。 <p>【成果を測る指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修の参加者数：160人 ・研修の修了者数：160人 <p>【副次的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ内でISSBブロックが耐久性の高い建設用ブロックとして認識され、需要が高まる。 ・研修修了者が起業の機会を得やすくなる。

⁵ スフィア・スタンダードとは、難民や被災者等への緊急人道援助の現場において、支援者が守るべき最低基準を規定した国際的なハンドブック。仮設住宅建設事業であれば、1人あたり3.5平方メートルを超える居住空間を一般的に推奨する等の基準が設けられている。

	<p>【確認方法】</p> <ul style="list-style-type: none">・ 研修の出席表および修了者リストを記録する。
--	--